
復讐鬼

BlackQueen

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

復讐鬼

【Zコード】

N1576F

【作者名】

BlackQueen

【あらすじ】

普通な中学生の優は、ある人に突然、幸せな生活をめちゃくちゃにされてしまいます。その結果家族はバラバラに……。復讐を誓う優は、片思い相手で幼なじみでもあつた龍の傍で、表情をなくし、復讐の為だけに生きていきます。果たして、優は恐ろしいような復讐を達成するのでしょうか？龍との関係は進展する？優によって人々の運命はどのように変わっていくのでしょうか？

プロローグ

「……お祖父ちゃん……。」

ここは東京某所にある、閑静な墓場である。この物語の主人公、仲居優は夏休み……お盆なので、家族と共に墓参りに来ていた。

墓の周りを箒で掃き、落ち葉を集め。墓前を綺麗にすると、優は一息ついた。

「……ねえ、お母さん……？」

祖父が病気で亡くなつてから九年が経つた。しかし、祖父の墓の周りには、墓が一つも建つていない。それが、優には疑問だった。

「何? ほら、優もお花と線香を供えなさい。」

「うん……。」

菊と饅頭、線香を供える。大好きな祖父の為に。優は優しい気持ちになつていった。

第一話 平和な日常と再会

「優……。」

優しい笑顔が眩しい。銀に近い白髪に、細い体。

「何、お祖父ちゃん?」

優もニッコリ笑う。

「……おつきくなつたねえ。」

そう。祖父は会う度に言うのだ。大きくなつた、と。癖なのだろうか、頭をくしゃっと撫でながら。くしゃくしゃになつたけれど、優の肩に掛かる黒いショートヘアはサラッと元の位置に戻る。

「お祖父ちゃん……。」

……久しぶりの夢だつた。もう、声さえ覚えてないのに。会つたのだってもう……覚えてないのに。今は中学生で、あの時は幼稚園だったから。

優は五人家族だ。父の真人、母の沙織、弟の康太と力也。ごく普通の、何も問題の無い家族だ。

「……ふう。」

墓参りから家に帰つてくると、とてつもなく疲れていた。眠くなつてくる。昼寝してしまつて、もう夕方だ。

「本屋行つてこよう……。」

読書が好きな優は本屋が好きだつた。でもまだ、宿題の読書感想文を書いていない。夏休み後半なのに。別に図書館の本でも良かつたのだが、新しい小説が欲しかつた。

「……げ、もう……3時!」

立ち上がった。本屋に行きたかった。だから、夏休みは困る。眠くなるから。昼寝の誘惑に負けてしまつ。

「へい、いらつしゃいつ！」

「……お願いします。」

魚屋のような掛け声。今どきの本屋は普通なのだろうか。

「ありがとやした！」

反対に優は冷静になつていぐ。

「……ありがとう。」「

「……おい、お前……つー

本屋から出で來たと同時に、後ろから話し掛けられた。ビクツ、と反応してしまう。大人の男の人には、知り合いはない。

「……な、何ですか……？」

一見、イケメンホスト。それか、推理ドラマのギャングだ。低い声が、凄く恐い。

「……忘れたのか？」

中学生が、十歳近く歳の離れた異性と関わつた事があつたろうか。

「えつと……どちら様ですか？」

「……神野、龍だ。」

この、変わらない表情。優しい笑顔。——口——口と並び立つ……——やりつて笑い方。神野……。

「龍……りゅーお兄ちゃん？」

「……思い出したかい、優？」

笑みが深くなつた氣がする。この場合、Yoshiのか優なのか。

この人は昔から、キザなんかクールつてゆーか、訳の分からない性格をしている。

「……久しぶり！」

五年ぶりに会った。確かに、最後に会った時はこの人は高校生だったから……。

「……も、社会人？」

「ああ。一応、弁護士をやっている。」「凄い、かつこいいねえっ！」

弁護士は頭が良くないと出来ないだろ？

「……お前はもう、中学生か？」

「うん！一年生になつたよ！」

「……でつかくなつたなあ。」

…… そうかなあ。この人は190センチ位で、私は160センチちょっと手前だから、身長差は激しいと思つんだけど。

「……あ、もう帰らないと。」

「……そつか、じゃあまたな。遊びに来いよ。」

「りゅーお兄ちゃん……か。」

小学生だつたら、普通に呼べるけど。今じゃ……ねえ？五年の田田は大きい。

「かつこいい……なあ。」

初めてバレンタインデーに手作りチョコをあげた人。言つなれば初恋だ。

「彼女……いるの、かな？」

イケメンだから、十分ありえる。まず、私みたいなガキが近付けるのが奇跡だ。イケメン弁護士の未来は明るいよね……モテるだろうし。きっと、あの後たくさんの人と付き合つたのかなあ……。いや、あまり興味ないつて聞いた事ある気もする……五年前に。

「……また、会いたいな……。」

いいよね、幼なじみなんだから。歳は十歳差だけど。そんなの関係ない。行こう。

……しかし、それから私が、すぐにりゅーお兄ちゃんと会つ事は無かつた。

第一話　変化の予感

十月のある日だった。学校から家に帰ると、家にはお姫さんがいた。

「お帰りなさい、優ちゃん。」

近所に住む、鈴木さんだ。母の友人と言つべきか。私はちょっと苦手だった。……化粧が濃くて、全身がブランドの物。髪は今風に茶髪ウエーブ。さらに言葉遣いが甘つたるい。だけど、誰も何も言わないから黙っている。荒波は起こそすべきではない。弟達は完全に無視してゲームをやつしている。

「……こんにちは。」

確かにこの人には加奈ちゃんって言う娘さんが一人いて……私より一つ年下だったかな?……とにかく私はあまり好きじゃない。

「ああ、優。鈴木さんからケーキ頂いたの。食べる?」

……ケーキは好きだけど、目の前で食べたくない。

「後にする。テスト勉強の後に。」

勉強なんかする訳がないけど。

「……そう?じゃ、頑張りなさい。」

「偉いわねえ……加奈にも見習わせたいわあ。あ、もし良かつたら勉強見てあ」

……それは恐らく、勉強を教えてやれと言う事か。言葉を全部聞かずには、私は自分の部屋に逃げ込んだ。

「ふん、上手く逃げた……ふう……。」

今は午後三時。いくらなんでもあと三時間で帰るだろう。それまで時間を潰す必要がある。

「……本でも読むかあ……。」

……その時だった。私が本棚から本を取り出すといきなり、触れていない所から、重い一冊の本が飛び出してきた。その本の角は、私の足の甲にクリティカルヒットする。

「いつたあああつ！」

痛みの感覚では恐らく、痣が出来ている。見るのも嫌なので、脚を見ずに本を拾い上げる。

「……何だよ、一体……超痛い……。」

……「一ゴー作、ああ無情……。」

「……レ・ミゼラブルか……。」

貧しい家族の為にパンを盗んだ主人公。脱獄を繰り返したおかげで十数年間も牢獄に入れられていて、服役が終わった時にはもう中年に差し掛かっていた。でも、自由の身になつても犯罪者には社会の風当たりが強く、主人公の心は冷たくなっていく……。そんな中で、主人公はとある有名な司教に出会い、人や神の愛を説いてもらひ……。愛に目覚めた主人公は、たくさんの人々の人生に深く関わりながら愛を深めていく……。

「……。」「……。」

凄くいい話なんだけど。私は……この話を読むと悲しくなつていくのだ。読み終わった時には号泣してしまう。主人公は、最後の最期に人からの愛を受ける。全ての人々に感謝しながら、彼は微かな命の火を消すのだ。私は……そんなの嫌だ。もつと……愛を満喫したい。永遠と思えるような愛を、恋愛をしてみたい。

「……やっぱり……。」

りゅーお兄ちゃんに会つてこひつ。今はテスト前で忙しいけど、来月辺り。ぜひとも龍さんつて呼びたい。

「優ーーっ！鈴木さんがお帰りよーーっ！」

部屋の外から、母さんの声が聞こえる。

「……はーいつ！」

出来れば、そのまま帰つて貰いたかったけど。私は『お見送り』をした。

その日の夜だった。九時になると寝る体质の私は、夜の十一時に目が覚めた。話し声が聞こえたからだらう。

「…………ねえ…………？」

お父ちゃんとお母さんの声だ。

「…………離婚を考えてる…………。」

「だから…………。」

「…………誰の話だらう？離婚って、この家が？家族バラバラになっちゃうの？一人とも怒ってるとかってゆう感じじゃない…………。もう離婚調定結びきつたとか！？」

「…………やばい、こんな時に限つて…………眠くなってきた…………！」

「…………離れたく…………ないよう…………。」

私の人生は、明日からどんどん底に墮ちていくのかも…………しれない…………。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1576f/>

復讐鬼

2010年10月14日09時12分発行